

高等教育機関と連携したダイバーシティに関する
講座等企画・運営業務

報告書

高等教育コンソーシアムみえ

目次

1	はじめに	1
2	各高等教育機関でのダイバーシティ授業・講座	
(1)	三重大学	2
(2)	鈴鹿医療科学大学	3
(3)	三重県立看護大学	4
(4)	高田短期大学	5
(5)	ユマニテク短期大学	6
3	授業におけるアンケートの結果	
(1)	三重大学	
①	第1回、第2回（10月27日、12月1日開催）	9
(2)	鈴鹿医療科学大学	
①	第1回（11月10日開催）	14
(3)	三重県立看護大学	
①	第1回（1月26日開催）	19
(4)	高田短期大学	
①	第1回（12月16日開催）	25
②	第2回（1月14日開催）	30
(5)	ユマニテク短期大学	
①	第1回～第3回（10月8日、11月12日、12月10日開催）	33
4	ダイバーシティ教材	40
5	情報発信	41
6	おわりに	55

1 はじめに

(1) 業務の目的

本業務は、平成 29 年 12 月に三重県が策定した「ダイバーシティみえ推進方針～ともに輝く（きらり）、多様な社会へ～」をふまえ、複数の県内高等教育機関においてダイバーシティに関する授業や公開講座等を行うとともに、ダイバーシティ推進に係る教材を作成するなど、ダイバーシティ推進の考えを県内に広めていくものである。

(2) 業務の概要

① 各高等教育機関でのダイバーシティ授業・講座

ダイバーシティについて学ぶ授業・講座を企画・運営し、三重大学・鈴鹿医療科学大学・三重県立看護大学・高田短期大学・ユマニテク短期大学の 5 高等教育機関で、オンラインでの実施も含め合計 10 回の授業・講座を実施した。そのうち 1 回は、公開講座として開催した。授業では、三重県のダイバーシティみえ推進方針を紹介し、各回のテーマは、ダイバーシティ推進の考えを県内に広めていくという趣旨に沿うものを実施した。また、受講者に対し、ダイバーシティに関する意識調査アンケートを実施した。

② 情報発信の取組

高等教育コンソーシアムみえのホームページやニュースレターにおいて、本事業に関する情報発信を行った。

2 各高等教育機関でのダイバーシティ授業・講座

(1) 三重大学

① 第1回

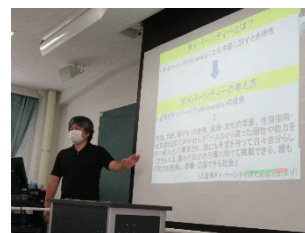
三重大学 人文学部 谷口 智雅 特任教授の授業「環境地理学 B」において実施した。

日 時：令和3年10月27日（10：30～12：00 対面 + オンライン）

講 師：谷口 智雅（三重大学 人文学部 特任教授）

内 容：ESD（持続可能な発展のための教育）、SDGs（持続可能な開発目標）、発展途上国における水と貧困の問題、教育の格差、誰もが平等に与えられるべき環境を目指すために出来ること、三重県におけるダイバーシティ社会推進に向けた取組

受講者：三重大学生 41 名



② 第2回

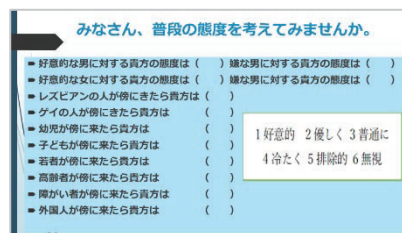
三重大学 人文学部 谷口 智雅 特任教授の授業「環境地理学 B」において実施した。

日 時：令和3年12月1日（10：30～12：00 対面 + オンライン）

講 師：南 泰代（花園大学 社会福祉学部 児童福祉学科 非常勤講師）

内 容：多様な人間関係・シチュエーションにおける普段の自分の態度を分析する個人ワーク、性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れるダイバーシティ&インクルージョンの考え方をもとに、互いに多様性を尊重し、認め合うことの大切さ

受講者：三重大学生 34 名



(2) 鈴鹿医療科学大学

① 第1回

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 藤原 芳朗 医療福祉学科長・教授の授業「社会福祉概論Ⅱ」において実施した。

日 時：令和3年11月10日（15：10～16：40）

講 師：藤原 芳朗（鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 医療福祉学科長・教授）

内 容：社会福祉の領域と深く関連する男女共同参画社会、国内の労働状況の変遷や少子化対策、<違いを認めあえる>=多様性（ダイバーシティ）を受け入れる社会の大切さ、三重県におけるダイバーシティ社会推進に向けた取組

受講者：鈴鹿医療科学大学生約40名



(3) 三重県立看護大学

① 第1回

三重県立看護大学 母性看護学 大平 肇子 教授の授業「母性看護方法Ⅰ」において実施した。

日 時：令和4年1月26日（13：00～14：30）

講 師：大平 肇子（三重県立看護大学 母性看護学 教授）

内 容：在日外国人の母子保健の課題、多様な社会における母性看護学、「言語・コミュニケーションの違い」「異文化理解」「保健・経済的問題」「保健医療システムの違い」について、三重県におけるダイバーシティ社会推進に向けた取組

受講者：三重県立看護大学生 103 名



(4) 高田短期大学

① 第1回

高田短期大学 キャリア育成学科 中畑 裕之 教授の授業「キャリアデザインⅡ」において実施した。

日 時：令和3年12月16日（13：00～14：30）

講 師：中畑 裕之（高田短期大学 キャリア育成学科 教授）

内 容：変化する時代の中でのキャリア選択、自分がやりたい姿に向けたバックキャストリング、自分の役割や職業の選択時における多様性（ダイバーシティ）の認識について、子育て支援制度の充実した企業・女性社員が活躍している企業について、三重県におけるダイバーシティ社会推進に向けた取組

受講者：高田短期大学生 59名



② 第2回

高田短期大学 キャリア育成学科 中畑 裕之 教授の授業「マーケティング論」において実施した。

日 時：令和4年1月14日（13：00～14：30）

講 師：中畑 裕之（高田短期大学 キャリア育成学科 教授）

内 容：時代に即したマーケティング、企業に対する価値観の変化について（子育て環境の改善、環境問題への貢献、SDGs への取組）、製品・サービスにダイバーシティ（多様性）を取り込むこと、三重県におけるダイバーシティ社会推進に向けた取組

受講者：高田短期大学生 21名



(5) ユマニテク短期大学

① 第1回

ユマニテク短期大学 幼児保育学科 田村 禎章 准教授の授業「子育て支援演習」において実施した。

日 時：令和3年10月8日（14：50～15：50）

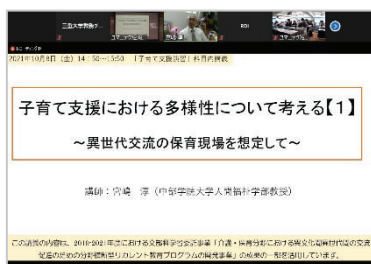
講 師：宮嶋 淳（中部学院大学 人間福祉学部 教授）※オンライン講義

内 容：「子育て支援における多様性について考える【1】

～異世代・異文化交流の保育現場を想定して～

事前学習（三重県におけるダイバーシティ社会推進に向けた取り組みや保育現場における異世代間交流についての動画視聴）を踏まえた3つの課題「事前学習で見た動画について、一人一言！」「今のあなたの居場所は、どこですか？」「いろいろな年代の職員がいる職場を、居場所にしていくためには、どんなことが必要だと思いますか？」についてのグループディスカッション、意見発表

受講者：ユマニテク短期大学生 56名



② 第2回

ユマニテク短期大学 幼児保育学科 田村 禎章 准教授の授業「子育て支援演習」において実施した。

日 時：令和3年11月12日（14：50～15：50）

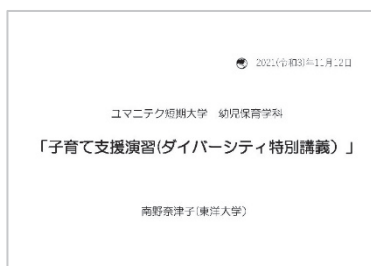
講 師：南野 奈津子（東洋大学 ライフデザイン学部 生活支援学科 教授）※オンライン講義

内 容：「子育て支援における多様性について考える【2】

～異文化交流の保育現場を想定して～

外国籍の子どもや保護者とのコミュニケーション、保育士と子ども・保護者との間に生まれる文化や価値観、生活習慣の違いへの関わり方について、文化の違いがあると意識しづらいこと、グループワーク

受講者：ユマニテク短期大学生 57名



③ 第3回

ユマニテク短期大学 幼児保育学科 田村 禎章 准教授の授業「保育実習Ⅱ」において実施した。

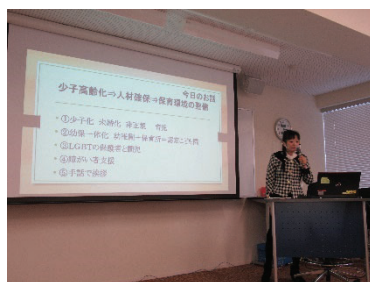
日 時：令和3年12月10日（14：50～15：50）

講 師：南 泰代（花園大学 非常勤講師）

内 容：保育環境とダイバーシティ

働き方改革が提唱されている現代社会、女性が活躍できる環境づくり、多様な人材が働きやすい社会、働き方改革実現のためのダイバーシティの推進、保育環境の整備、三重県におけるダイバーシティ社会推進に向けた取組

受講者：ユマニテク短期大学生 57名



④ 公開講座

日 時：令和3年12月11日（13：30～15：30）

場 所：ユマニテク短期大学 501 教室

+ オンライン（ハイブリッド）



内 容：第1部 基調講演会

「発達障害の子どもたちの進路と多様な可能性」

日野 公三（明蓬館高等学校 校長）

第2部 パネルディスカッション

「ダイバーシティの視点での三重県の

小・中・高等学校の現状発表とディスカッション」

コーディネーター

鈴木 達哉（ユマニテク教育研究所 副所長）

① 特別支援教育の視点から

森井 博之（三重県立かがやき特別支援学校 校長）

② 地域格差の視点から

土方 清裕（三重県立飯南高等学校 校長）

③ 外国にルーツを持つ生徒への教育の視点から

鈴木 孝之（四日市市教育委員会 指導課）

受講者：47名（パネリスト除く）



3 授業におけるアンケートの結果

【アンケートの概要】

各高等教育機関における授業に出席した学生に、ダイバーシティの理解度やダイバーシティ社会に対する意識について質問するアンケートを実施した。

※構成比の合計は小数点以下第4位を四捨五入しているため、必ずしも100%にならない。

(1) 三重大学

① 第1回、第2回（10月27日、12月1日開催）

Q1 本日の講義で「ダイバーシティ」についての理解が深まりましたか？

37件の回答

深まった	27	73.0%
どちらかといえば深まった	10	27.0%
どちらかといえば深まらなかった	0	0.0%
深まらなかった	0	0.0%



Q2 本日の講義で「ダイバーシティ」についての行動（人の多様性を大切にされた行動）をしようと思いましたか？

37件の回答

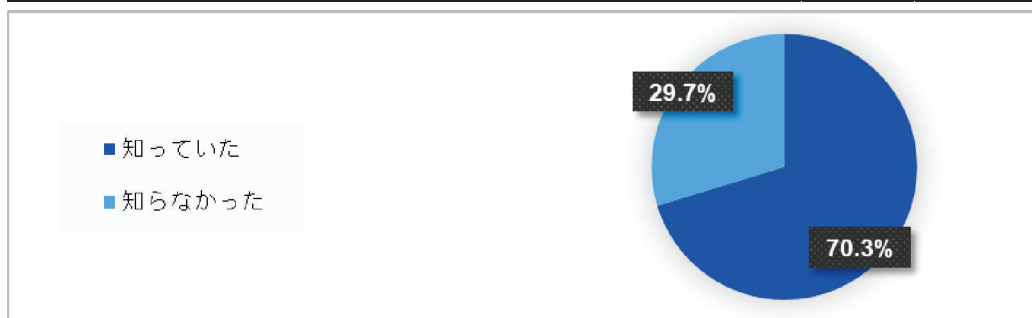
思った	27	73.0%
どちらかといえば思った	9	24.3%
どちらかといえば思わなかった	1	2.7%
思わなかった	0	0.0%



Q3 あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉をご存知でしたか？

37件の回答

知っていた	26	70.3%
知らなかった	11	29.7%



Q4 あなたは、性別や年齢、障がいの有無、国籍、性的指向・性自認などにかかわらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現は、大切だと思いますか？

37回答

そう思う	32	86.5%
どちらかといえばそう思う	4	10.8%
どちらかといえばそう思わない	1	2.7%
そう思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%



Q5 あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。
自由に記述してください。

多様性を認め合うこと

自分の欠点を知り、同じ欠点を持っている人と交流し改善点を調べ、その分野を得意とする人に教を乞うこと。他社との違いを認めるにはまず自分が迷子になってはいけない。

無意識な偏見をなくすこと

ダイバーシティの内容を多くの人に周知させる

柔軟な考え、行動力

固定観念を脱ぎ捨て、いろいろな人が世の中にいることを知り、認める。マイノリティの人たちのことをわざわざ取り上げたりする必要はない。ただ、そこにいることが普通の世の中になるように、まずは知ることから始める。
社会を実現させるためには、法整備も重要になってくると思うので、多様性を認める法律を作ることも大事だと思う。

まずは自分を認めることから始める。そうすることで、自分に余裕ができ周りのことを寛容に受け止めることができるようになる。常にこの意識を持っていることがダイバーシティー社会実現につながると考える。

人に優しくする気持ちが必要だと思う。お互いを認め合った上で行動を考えるべきだ。自分の行動が誰かのためになるかもしれない、反対に、誰かを苦しめているかもしれないと考えることが大切だと考える。

違いを気にしない、ある程度のいい意味での「無関心」

人々の理解

性別や人種にとらわれないこと

多様性を受け入れるために相手を理解すること。

慎重が必要だと思う。この世の中、男性に適していること、女性に適していることが存在することは事実であるため、男女比に表れてしまうところも存在することは否めない。しかし、そこも含めて人間であるので、お互いを尊重し、無駄なところで自分の意見を突っ張らず互いに高め合うことが出来ればより理想的社会に近づけると思う。

一人一人が他者のことを思い、広い視野を持つ意識。

多くの人と積極的に関わり、色々なことを知ること。

自国や自身だけでなく、他国や他者を理解しよう、知ろうとする気持ちを持つことがまずは必要であると考えます。

誰もが自分と違うことを理解し、偏見を持たないこと。

多様性を受け入れる心

他者を思う気持ち、生活している現在の恵まれた環境だけではないという理解

各個人がダイバーシティについて深く知ること

多様性について理解すること

マイノリティを大切にしていくこと。

自分に合わない人を排斥するのではなく、竹田恒泰さんが言っていた『差別主義者も含んでの多様性』を意識する

多様性をつぶさず、そういうのがあってもいいと容認する心持ち。多様性によってみんながちょっとずつ不便を感じるけど、自分も社会に受け入れてもらっているからギブアンドテイクだとそれを容認する。ものごとを寛容に見る力がダイバーシティ社会の実現に必要なのだと思う。

こうであるべきだ、という固定概念をみんながなくすように心がける。

一人一人が多くの人と交流を持つこと。

多くの人が新しい考え方を共有することが必要であると思う。

自分とは違う価値観や考えを理解すること。

私は、一人ひとりが尊重されるためにお互いの違いを知ることが大切であると思う。違いを知ったうえで互いに支え合うことが重要であると感じる。

比較的少数派の人たちの意見を取り入れることも重要だが多数派の意見を無下にしすぎないことが重要だと思う。

自分と他者を互いに認め合い、互いに社会としての自分を磨きあうことが必要だと思う

自分の価値観にとらわれずに多様な文化、価値観を広く認めていく必要があると思います。

(2) 鈴鹿医療科学大学

① 第1回 (11月10日開催)

Q1 本日の講義で「ダイバーシティ」についての理解が深まりましたか？

37件の回答

深まった	23	62.2%
どちらかといえば深まった	13	35.1%
どちらかといえば深まらなかった	0	0.0%
深まらなかった	1	2.7%



Q2 本日の講義で「ダイバーシティ」についての行動 (人の多様性を大切にされた行動) をしていこうと思われましたか？

37件の回答

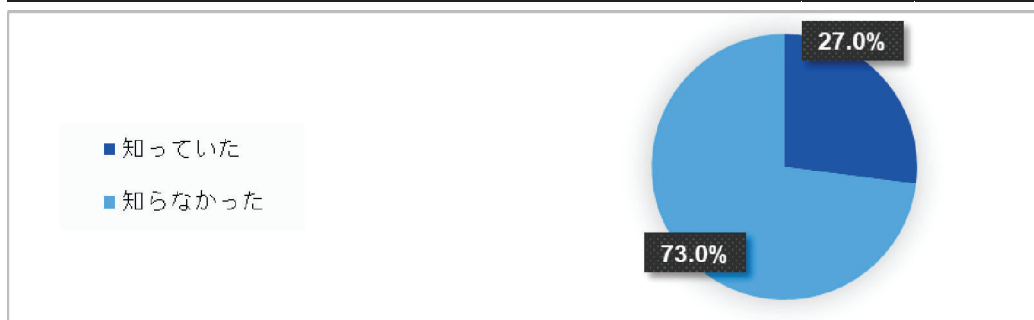
思った	24	64.9%
どちらかといえば思った	12	32.4%
どちらかといえば思わなかった	0	0.0%
思わなかった	1	2.7%



Q3 あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉をご存知でしたか？

37件の回答

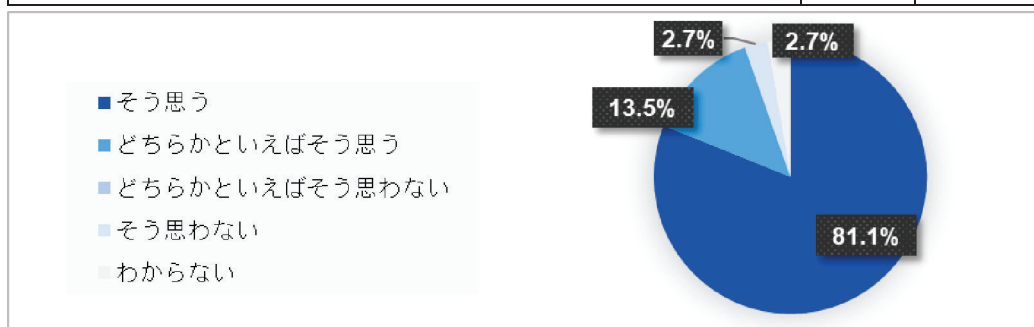
知っていた	10	27.0%
知らなかった	27	73.0%



Q4 あなたは、性別や年齢、障がいの有無、国籍、性的指向・性自認などにかかわらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現は、大切だと思いますか？

37件の回答

そう思う	30	81.1%
どちらかといえばそう思う	5	13.5%
どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
そう思わない	1	2.7%
わからない	1	2.7%



Q5 あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。
自由に記述してください。

一人一人の個性を見つける事が大事

自由さ

妥協

自分の当たり前や普通を貫いて偏見を作らないようにする

疑うことを大切にすること。

ダイバーシティの考え方を広めていくこと。

ダイバーシティ社会を実現しようとしていることを周知すること

人と人との関係をもっとしっかりして思いやりの心を持つ

個人個人の考え方だも思う

多様性があることを知り、他者を理解しようとする事

義務教育の段階で人はそれぞれ違っていいということを伝えていくべきだと思
う。

お互いがお互いを受け入れ、認める姿勢や考え方。お互いを思いやる気持ち。

一人一人の意識を変えていく事が必要だと思う

みんなが普段から自分の考え方を見直していくこと

他人が自分とは違うと言うことをよく知り、受け止める姿勢を作ることが必要だと思いました。

一人一人ちがう個性を認め合える気持ちを全員が持つ必要があると思いました。

一人一人の意識の改善

一人一人の声を聞いて、思いを形にすることが必要だと思います。

個人の違いを認める

一人一人が心がけ、全体としての雰囲気作りが大切である。

男女の偏見というものはやはりまだあると思うのでそこを1つ1つ潰しめくことが必要だと思いました。

また LGBT についてもっと広めていき、理解を深めることもすごく必要だと思う。

国が、世界からではなく、日常生活から些細な差別や思い込みを無くすことが大切であり必要だと思いました。

いろんな人と話す。

偏見をなくすこと。

多様性を受け入れる社会づくり。

今、自分たちが住んでいる地域に様々な人が住んでいることを自覚することや様々な人々と交流する機会を得て、それぞれの考えについて共有することが必要だと考えます。

皆が、みんな違ってみんないいという気持ちを持つことが大切だと思います。わたしと小鳥と鈴とを小学生の時にしましたが、これから忘れずにしたいです

一人一人が当事者意識をもつこと。

多様性を認める。一人一人の都合の良さに合わせず、全てのものに平等に扱うようにする。

様々な考えを持っている人がいるという考えを持つことが大切だと思います。偏見や自分だけの価値観を無くすことが大切だと思います。

広い世代に個人の多様性を理解してもらう必要があると感じた。

私は「ダイバーシティ」という言葉を知らず、また三重県がこれを推進していることも知らなかったので、私様な人のために色々ところで今日のような授業や知る機会があれば良いと思う。

差別をなくす。

男女差別をなくそうとして女性の立場が上になっているのではないですか？
男性のスカーツや、痴漢の誤逮捕など育児休暇を男女同じ条件にしないのはなぜなのか
男女平等を目指すならしっかりと欲しいですね

みんながみんなの違いを認めることができる社会が必要だと、講義を聞いて感じた。

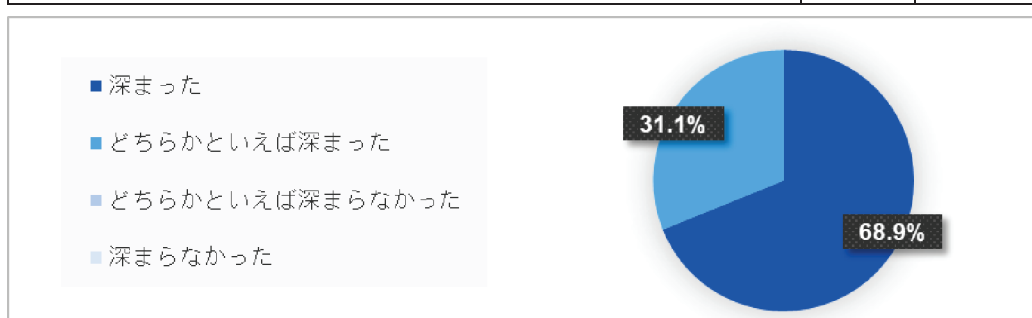
(3) 三重県立看護大学

① 第1回 (1月26日開催)

Q1 本日の講義で「ダイバーシティ」についての理解が深まりましたか？

90件の回答

深まった	62	68.9%
どちらかといえば深まった	28	31.1%
どちらかといえば深まらなかった	0	0.0%
深まらなかった	0	0.0%



Q2 本日の講義で「ダイバーシティ」についての行動(人の多様性を大切にされた行動)をしていこうと思いましたか？

90件の回答

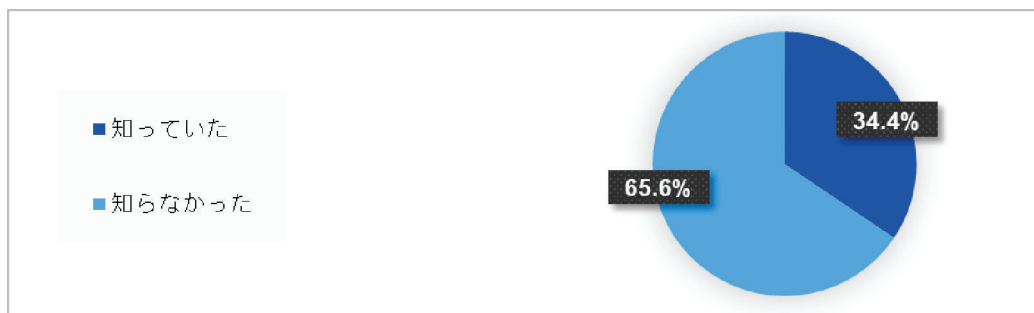
思った	76	84.4%
どちらかといえば思った	14	15.6%
どちらかといえば思わなかった	0	0.0%
思わなかった	0	0.0%



Q3 あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉をご存知でしたか？

90件の回答

知っていた	31	34.4%
知らなかった	55	65.6%



Q4 あなたは、性別や年齢、障がいの有無、国籍、性的指向・性自認などにかかわらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現は、大切だと思いますか？

90件の回答

そう思う	76	84.4%
どちらかといえばそう思う	14	15.6%
どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%



Q5 あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。
自由に記述してください。

ダイバーシティ社会、つまり多様性の社会が実現するために、私たちがアンコンシャスバイアスがあることを自覚して一度客観的になって物事を考えるように促す必要があると思う。

正しい知識の広まり

自分たちには潜在的にアンコンシャス・バイアスが存在することを知ることが必要だと思った。

まずはダイバーシティ社会についてみんなが知って学ぶ必要がある。

想像する力

個性を認めるということについての知識の普及

相手の考えを理解しようとする姿勢を保つこと。

一人一人の理解

偏見を持っていないか、自分に問うことを意識する。

まずダイバーシティという概念を知ろうとすること。

社会には多様な人々がいるということを理解すること。

周囲にダイバーシティについての説明を行い、認知度を高くしていくことが必要であると思う。

個人個人の意識の見直し

人を思いやる心

アンコンシャスバイアスについて理解を深めること。

多くの人がこのダイバーシティという考えを認知し、行動に起こしていくことが必要だと考える。

相手の価値観や考えを理解しようとする姿勢を持つこと。

偏見をなくしていくことが必要だと思う。

ダイバーシティ社会に偏見をもたない環境づくり（子供や大人に向けた講義・セミナー）

ダイバーシティについての知識を広めること。

自分の固定観念を捨てるために、色んな人から意見を聞くこと。

自分のアンコンシャス・バイアスに気づき、無くしていくこと。

周りのことを認めることと、その一人一人への配慮、気遣い

人の気持ちを理解し、共感できる気持ちが必要だと思う。

偏見をなくすこと

理解しようとする気持ち

一人一人が意識すること

アンコンシャス・バイアスをなくすために、どのような思い込みが起きやすいか知り、多様な考え方があると知った上で視野を広げること。

このような取り組みがあるということを SNS 等を用いて広める。

多様性への理解

様々な人の考えに耳を傾け、それぞれの文化、考えに寄り添うこと

性別や年齢、国籍、障がいの有無など、自分とは異なる人の部分を差別せず、長所やその人の個性として捉えることが必要である。そして、各々の能力が十分に発揮できるような人間関係、信頼関係、環境づくりが重要だと思う。

個人が偏見を持っているかもしれないという意識

個人が相手を理解しようとする姿勢をとること

それぞれの価値観を大切に尊重しながら、これまでの偏見を取り除く必要がある。

アンコンシャスバイアスを知ること、理解すること。

ダイバーシティについての認識をさらに広めていくこと。

ダイバーシティについての知識の普及

自国のみでなく、他国の文化や風習にも理解を示していくこと。

偏見を抱かないようにする精神

お互いを尊重し合える心

一人一人の理解も大切だが、まず取締役や管理職などの人の上に乗って組織の規範や在り方を決定していく人達にこの理念を理解してもらうことが実現に近づきやすいのではないかと考えた。

知識を身につけることや、適切な行動を行うということが必要であると思う。

人々の理解

無意識のうちに偏見や差別をしてしまっていることに気づくことがまず必要だと思いました。

まだまだ障がいや性的指向の多様性について知らないことが多くあると思うのでそれを知らせていく機会をつくる（学校、会社などで）

無意識の偏見をなくし、多様性を意識した関わり方を持つこと。

知識や言葉の普及と、どのような場面においてアンコンシャス・バイアスがみられるか、具体的な場面と適切な対応の例を伝える。

まずは、いろいろな人がいて、それぞれ違う意見を持っているということを知ること。

アンコンシャスバイアスをなるべく少なくなるように、女性はこう、A型の人はこちら、という記事やポスターをなるべく少なくする。

(4) 高田短期大学

① 第1回 (12月16日開催)

Q1 本日の講義で「ダイバーシティ」についての理解が深まりましたか？

54件の回答

深まった	33	61.1%
どちらかといえば深まった	21	38.9%
どちらかといえば深まらなかった	0	0.0%
深まらなかった	0	0.0%



Q2 本日の講義で「ダイバーシティ」についての行動 (人の多様性を大切にされた行動) をしていこうと思われましたか？

54件の回答

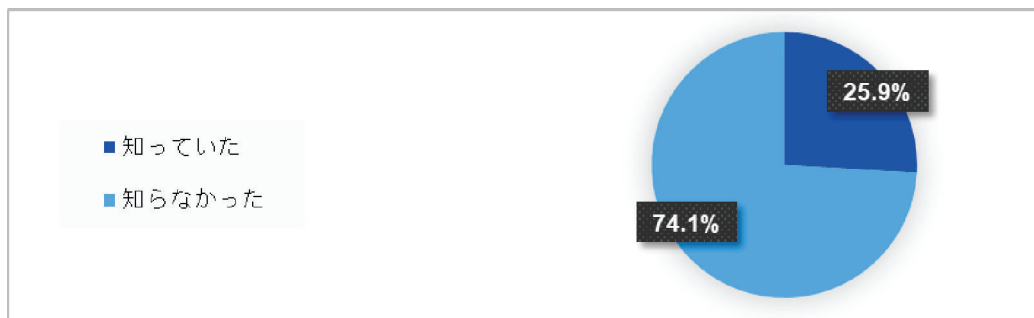
思った	45	83.3%
どちらかといえば思った	8	14.8%
どちらかといえば思わなかった	1	1.9%
思わなかった	0	0.0%



Q3 あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉をご存知でしたか？

54件の回答

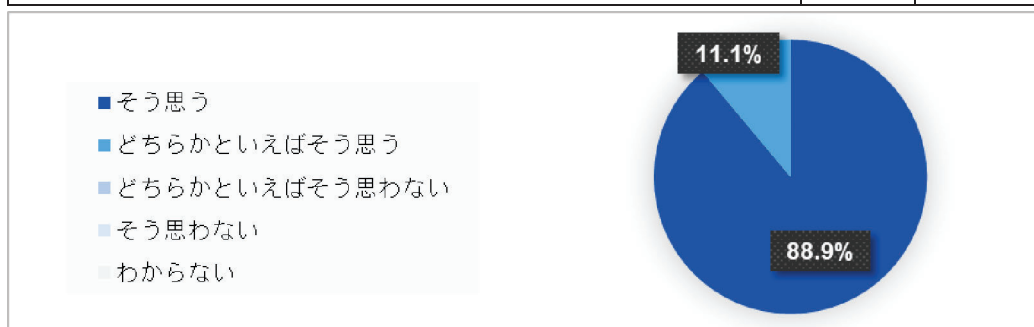
知っていた	14	25.9%
知らなかった	40	74.1%



Q4 あなたは、性別や年齢、障がいの有無、国籍、性的指向・性自認などにかかわらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現は、大切だと思いますか？

54件の回答

そう思う	48	88.9%
どちらかといえばそう思う	6	11.1%
どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%



Q5 あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。
自由に記述してください。

相手への思いやり

偏見を少なくすること

様々な個性があるという事を、沢山の人が受け入れられるような環境づくり。

理解する心

お互いを知ること

無意識の意識を変えていくこと

まずはダイバーシティという言葉を知ってもらう

差別をなくす。

特に性についての理解を深めてお互いに生きやすくすること

一人一人考える気持ち

一人一人が相手を受け入れる気持ち

一人一人の思いやりが大切だと思います。

LGBTQ への理解や社会制度の改定

相手を受け入れる心

自分自身を知ること

みんなが1人のことをちゃんと理解すること。見た目で判断することを辞める

一人一人が多様性を認め合うこと

ダイバーシティという言葉が世の中に浸透させていくこと

協調性や個人個人の能力を引き出せるような環境作り

努力、協調性、優しさ

意識しすぎないことが必要だと思います。

一人一人が視野を広げて、様々な人の意見を聞くことが必要だと思います。

直接、企業にダイバーシティー社会を実現してほしいと話すこと

差別や偏見のない社会づくり。思いやりの気持ち。

男女差別があるので、いじめが無くなると良いと思います。

話の中でこの人はこうなんかなと思っててもそれを相手に伝えなくてもいいと思った

偏った意見ではなく、その意見をしっかり考えたり他の人の意見も聞いたりすること。

一人一人意識していくべきだとおもう

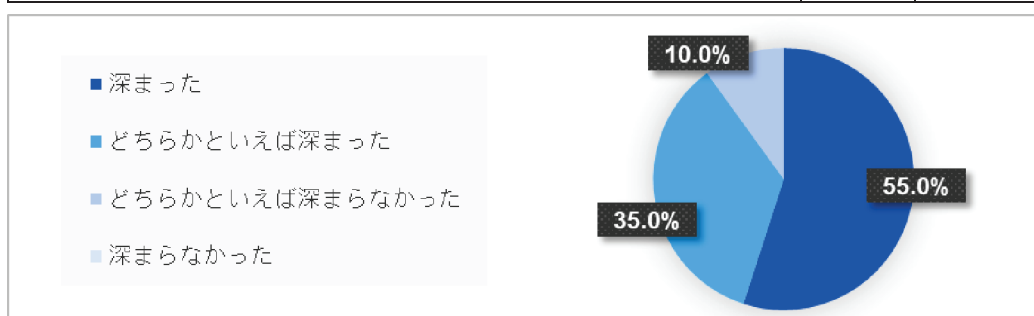
一人ひとりが支え合い、尊重することが必要

② 第2回（1月14日開催）

Q1 本日の講義で「ダイバーシティ」についての理解が深まりましたか？

20件の回答

深まった	11	55.0%
どちらかといえば深まった	7	35.0%
どちらかといえば深まらなかった	2	10.0%
深まらなかった	0	0.0%



Q2 本日の講義で「ダイバーシティ」についての行動（人の多様性を大切にした行動）をしていこうと思いましたか？

20件の回答

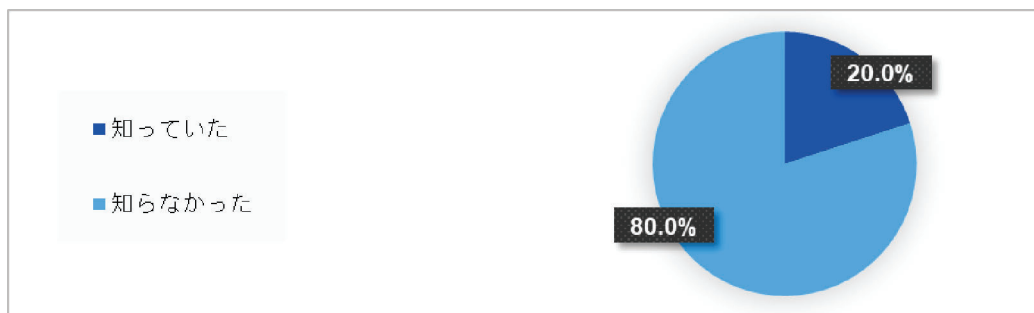
思った	12	60.0%
どちらかといえば思った	8	40.0%
どちらかといえば思わなかった	0	0.0%
思わなかった	0	0.0%



Q3 あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉をご存知でしたか？

20件の回答

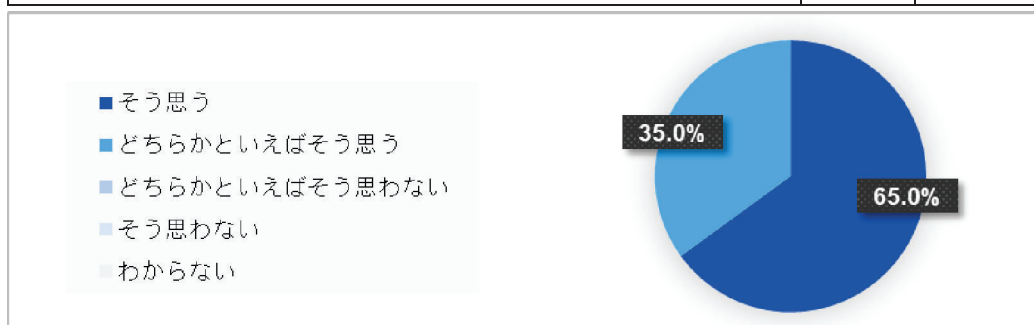
知っていた	4	20.0%
知らなかった	16	80.0%



Q4 あなたは、性別や年齢、障がいの有無、国籍、性的指向・性自認などにかかわらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現は、大切だと思いますか？

20件の回答

そう思う	13	65.0%
どちらかといえばそう思う	7	35.0%
どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%



Q5 あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。
自由に記述してください。

人に対する理解

交流を増やすこと

一人一人の思い遣り。

多様性

アンコンシャスバイアス。無意識の偏見を無くしていくことが必要だと思います。

考えが柔軟な小さいうちにこういった人もいるけど、こんな事情があるんだよって教えていくことが必要だと思います

アンコンシャス・バイアスをより多くの人が知る必要があると思いました。

- ・アンコンシャスバイアスを持っていることを自覚すること
- ・心にも余裕を持つこと

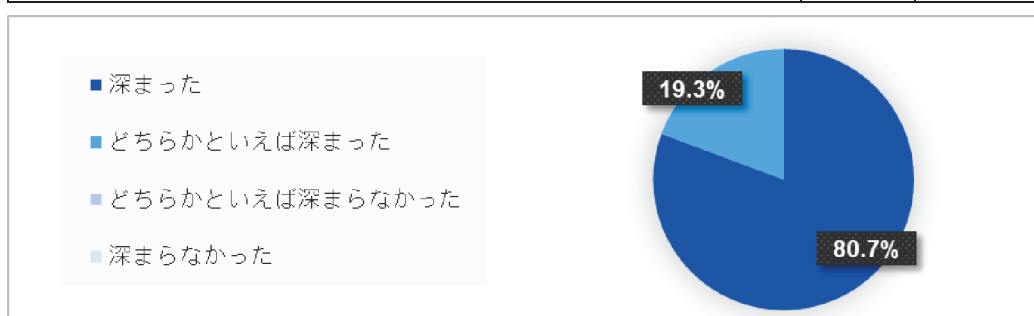
(5) ユマニテク短期大学

① 第1回～第3回 (10月8日、11月12日、12月10日開催)

Q1 本日の講義で「ダイバーシティ」についての理解が深まりましたか？

57件の回答

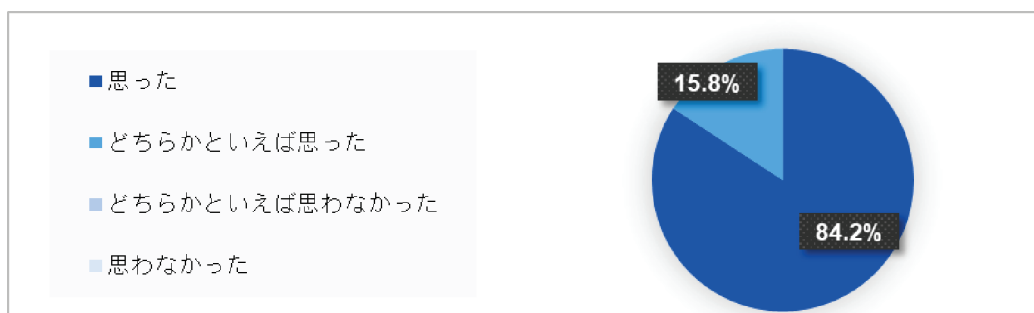
深まった	46	80.7%
どちらかといえば深まった	11	19.3%
どちらかといえば深まらなかった	0	0.0%
深まらなかった	0	0.0%



Q2 本日の講義で「ダイバーシティ」についての行動 (人の多様性を大切にされた行動) をしていこうと思われましたか？

57件の回答

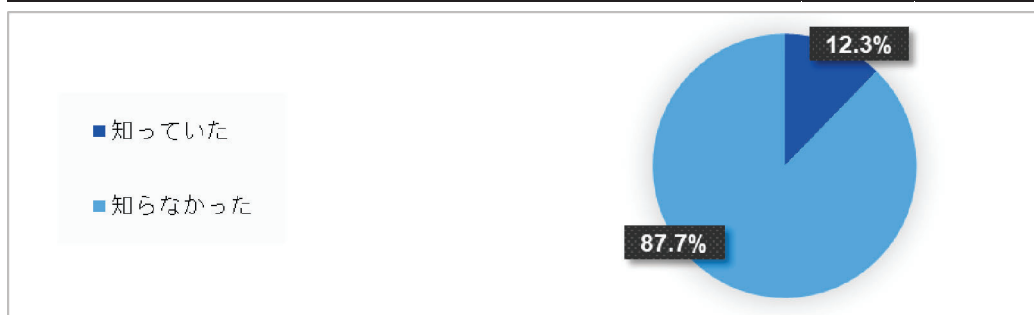
思った	48	84.2%
どちらかといえば思った	9	15.8%
どちらかといえば思わなかった	0	0.0%
思わなかった	0	0.0%



Q3 あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉をご存知でしたか？

57件の回答

知っていた	7	12.3%
知らなかった	50	87.7%



Q4 あなたは、性別や年齢、障がいの有無、国籍、性的指向・性自認などにかかわらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現は、大切だと思いますか？

57件の回答

そう思う	50	87.7%
どちらかといえばそう思う	6	10.5%
どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%
わからない	1	1.8%



Q5 あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。
自由に記述してください。

沢山人とかかわる

コミュニケーションを取ること

一人一人が意識して行動していくことが大切だと思いました。

挨拶をして、人と人とのつながりをたいせつにすること。

個人の尊重。思いやり。が大切だと思いました。

違いを受け入れる姿勢だと思う。

まずは、ダイバーシティについての理解をすること。

意見の交換やコミュニケーション
継続的な関わり

一人ひとりの考え方を変えるような活動

ダイバーシティを知っている人が少ないと思うので、まずはダイバーシティを知ってもらえるように学校やマスメディアで話題にするべきだと思います。

社会全体が意識を高めること

周りの協力が欠かせないと思いました。

何事も「理解する」ことが大切だと思いました。どのような価値観があるのかを深く知ることが必要だと思います。

一人一人がダイバーシティ社会を理解した上で自分が行動できることを探してそれを実際に行うことが必要だと思います。

色々な方が関わる機会を作りその場が増えていくことが必要になってくると思います。

もっと積極的に異世代交流をしていく。

色々な人がいるという事を皆が理解することと、自分の当たり前がみんなの当たり前ではないという事を理解すること

自分がわかる範囲で色々な人に広めたりして行くことが大切だと思う。

周りの人とコミュニケーションをとったり、自分の考えを言える環境が必要だと思います。

障害を持つ人や多様な世代の人たちが関わりながら、固定観念を捨て、みんなが生きやすい環境を作っていくことが大切だと思いました。

障害だからといって関わらないとかではなく、年齢や性格など関係なく笑顔で関わっていくことが大切だと思いました。

積極的にコミュニケーションをとったり、意見交換の場を作ったりすることが大切だと思います。

今の状況だと厳しいのかもしれませんが、多国籍の方との交流できるイベントであったりと楽しみながら交流できるようなものがあればいいかなと思います。

固定概念や偏見をとっぴらっていくことが大切だなと思います。

必要だと思うことはお互いの違いを認め合いをするのが大切だと思いました

お互いの壁や偏見をなくすこと。

いろいろな人と関わるが必要だと思います。

多様性の社会はさまざまな年代の関わりが大切で、どの年代も得るものがあると思うので、そういった行事を企画できるような人たちが必要だと思いました、

社会的なイメージが1番大切だと思います。1人が理解出来ていても周りが出来ていないと堂々と意見として出せないと思うからです。自分の意見を大切にとか周りを気にするなどもよく言いますがそんな簡単に出来たら差別や偏見はないと思うので。

具体的には、こういった講義などの学べる場を、より多くの人に受けてもらう事が一歩だと思います。

ダイバーシティ社会という言葉をもっといろいろな人に知ってもらうことが必要だと思います。

その社会に合わせた制度と、人々の理解

異世代交流を多くの人に知ってもらうことが必要だと思います。

社会の理解が必要だと考えます。

みんながダイバーシティについて知り、それについて改革していくことが大切だと思います

何事も決めつけから入らない。

一人ひとりの個性や自分らしさを大切に、色々な方と関わりを深めることが必要だと思いました。

人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びが必要だと思いました。

今日習ったものを、みんなが考えながら
自分なりに行っていくべきだと思いました。
謙虚に積極的に行動言動していくべきだと
思いました。

保育者として異世代の交流の場を積極的に作り、ダイバーシティを広めて行くこ
とだと思えます

女性だから男性だからと分けるのではなく、その自身をよく見て、関わっていく
ことが大切なのかなと思った。

もっと人々と交流する機会を増やすことが大切だと思いました。沢山コミュニケ
ーションをとることが必要だと思います。

一人一人と関わって個人を理解すること。

偏見をなくし、一人一人の個性を大切にしていきたいと思いました。

偏見をすることを無くすことが必要で、異世代交流についてももう少し広まれば実
現すると思います。

自分の視野を広めるために、様々な人々と交流する機会をつくる。 外を知る。
国内外でグローバルな交流ができるようにする。
アンコンシャスバイアスをなくす努力をする。

子どもができて、女は〇〇だからとか、男は〇〇だからと言わないようにする。

今の時代、個々で異世代交流は怖いと思ってしまう部分もあります。ですので、
保育や教育の場で、交流をもてる場所を多く持っていただけると、安心して交流
することが出来るのかなと思います。障がいの方や、外国籍の方との関わりは増
えてきているなと感じているので、子どもたちにとって良い刺激になっているの
かなと感じています。多様な方々と関わっていく機会が増えればいいなと感じる
中で、安心してと言うのが前提にあるともっといいなと思います。

固定観念をもつのではなく、一人ひとり多様な考えや価値観があるということを理解し、お互いの価値観や考え方をまず尊重して認めることが求められると思います。

皆が差別なく多様性を受け入れていけるような環境作りが大切だと思いました。ひとり親で子育てをしているので、偏見や生きづらさを感じることがありますが、今は保育園でも多様性を受け入れ、子どもも生活しやすい環境になっています。皆が生きやすい環境作りが大切で、自分自身もそうなりたいと思います。

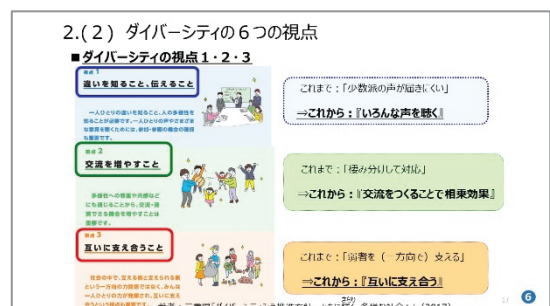
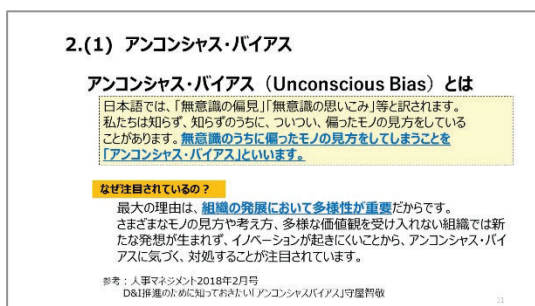
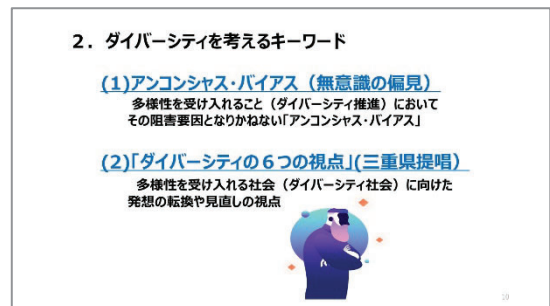
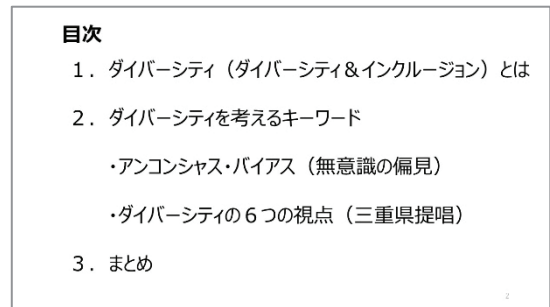
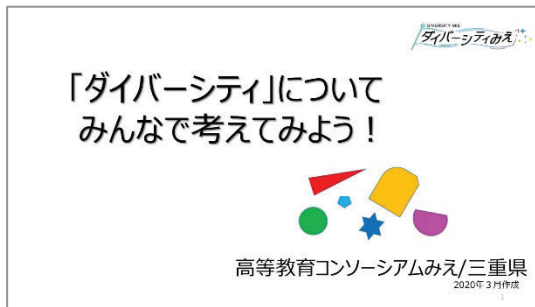
4 ダイバーシティ教材

【教材の概要】

パワーポイントで教材を作成することで、その他のテキスト等を必要とせず、本教材のみで研修等を行えるようにした。

内容は、ダイバーシティ及びダイバーシティ&インクルージョンやダイバーシティ社会の考え方、三重県のめざすダイバーシティ社会について説明したうえで、ダイバーシティを考えるキーワードとして「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」と、三重県が提唱する「ダイバーシティの6つの視点」を紹介し、アンコンシャス・バイアスについて考えるワークショップを行うものとなっている。

詳細は別紙のとおり。



5 情報発信

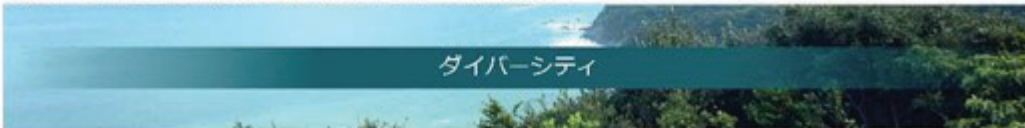
本事業において実施した取組を発信するため、高等教育コンソーシアムみえのホームページ内受託事業専用ページやニュースレターにて、本事業に関する情報を随時発信した。



The screenshot shows the website for the Higher Education Consortium Mie. The main headline is "ユマニテク短期大学でダイバーシティに関する授業を行いました！" (We held a lecture on diversity at Yamanashi University of Short-Term College!). The article is dated October 12, 2021. It describes a lecture titled "子育て支援講座" (Lecture on Child-rearing Support) held at Yamanashi University of Short-Term College, Faculty of Child-rearing Education. The lecture was held on October 8th from 14:50 to 15:50. The lecturer was Professor Naoko Miyama from the Faculty of Human Welfare at Chubu University. The article mentions that the lecture was held in response to the Consortium's goal of promoting diversity and that it was attended by 56 students from the 2nd year of Child-rearing Education. It also notes that the lecture was held in response to the measures to prevent the spread of COVID-19. The article includes two photos: one of the lecture slide and one of the lecture room. The slide title is "子育て支援における多様性について考える【1】 ~異世代・異文化交流の保育現場を想定して~" (Thinking about diversity in child-rearing support [1] ~Considering childcare sites for inter-generational and intercultural exchange~). The photo shows a lecture room with students and a lecturer.

<https://conso-mie.jp/2021/10/12/2021diversity1008/>

省 HOME / イベント / ダイバーシティ / ユマニテク短期大学で12/11（土）ダイバーシティ公開講座を開催します



2021年10月21日

ダイバーシティ

ユマニテク短期大学で12/11（土）ダイバーシティ公開講座を開催します

2021年12月11日（土）ユマニテク短期大学にて「ダイバーシティに関する公開フォーラム」を開催します。

高等教育コンソーシアムみえでは、県内高等教育機関の学生に対し、三重県が現在取り組んでいる「ダイバーシティみえ推進方針」とともに輝く（ゆらり）、多様な社会へ」の方針のもと、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を実施しています。

当日は、第1部の基調講演会には特選短高等学校 校長 日野 公三氏をお迎えし、第2部はダイバーシティの視点での三重県の教育の現状について、発表とパネルディスカッションを行います。ぜひご参加ください。



↑ pdfファイルが表示されます

チラシ	ダウンロードはこちら [286KB]
申込期限	11月30日（火）まで

前の記事
令和3年度第2回若狭県コンソーシアムみえ分県議員会
開催されました
2021年10月20日

次の記事
三葉大学でダイバーシティに関する公開講座を行いました！
2021年10月20日

● カテゴリー

- ▶ お知らせ
- ▶ ダイバーシティ
- ▶ FD/SD
- ▶ みえまちキャンパス

● アーカイブ

- ▶ 2021年
- ▶ 2020年
- ▶ 2019年
- ▶ 2018年
- ▶ 2017年

<https://conso-mie.jp/2021/10/21/2021diversity1211/>



高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

[アクセス](#)
[お問い合わせ](#)

● NEWS・イベント
● コンソーシアムみえとは
● 事務局
● 協賛校/加盟校
● 専攻/専修
● 活動報告/ファンタスティック

[最新HQRレポート / ダイバーシティ / 三重大学でのダイバーシティに関する取組について](#)

ダイバーシティ

2021年10月28日 ▼ カテゴリ

三重大学でダイバーシティに関する授業を行いました！

高等教育コンソーシアムみえでは、昨年度に引き続き、県内高等教育機関の学生に対し、三協校が協賛校で取り組んでいる「ダイバーシティめざす進路設計〜とちと輝く（キラキラ）、多様な社会へ」の方針のもと、授業や自然体験を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を実施しています。

10月27日（水） 10:30～12:00
『環境地理学Ⅱ』

<p>三重大学 人文学部</p> <p>三重大 環境生活部 ダイバーシティ社会推進課</p>	<p>行方 教員特別支援</p> <p>男女共同参画推進課</p> <p>榎本 千香子 担任</p>
--	--

三重大学「環境地理学Ⅱ」において、ダイバーシティに関する授業を行いました。1年生を中心に41名の学生が受講しました。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で、別室とオンラインのハイブリッド型で実施しました。

授業で、三重大 榎本会社から、三重大におけるダイバーシティの取組みや「アンコンシヤス・バイアス」【就業機のうちに乗ったモノの売方をしてしまうこと】について最近の事例を挙げながら説明を行いました。（写真1）



写真1

続いて、行方先生からダイバーシティの「誰もが参画・活躍できる」を具現化として、関連するISOやSDGsについても説明いただきました。（写真2）

さらに、現場と国における水と資源の状況によって、子供たちが十分な教育を受けられないことについてヒューアアップされました。誰もが生まれ先によって参画を受けられ、平等に与えられる機会を得るために、身の回りでも取り巻くものがあることが【例：自然体験に先を行く等】言われました。



写真2

授業後のアンケートでは、「あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が必須だと感じますか」という質問に対し「自強や自愛だけでなく、他者や他者を理解しよう、知ろうとする気持ちを持つことが必ずしも必要である」といった意見が見られ、受講生はダイバーシティについて理解を深めた様子でした。

次回は特別講師をお招きして、12月1日（水）に開催予定です。

<https://conso-mie.jp/2021/10/28/2021diversity1027/>

43

高等教育コンソーシアムみえ

高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

アクセス お問い合わせ

NEWS・イベント ● コンソーシアムみえとは ● 事業内容 ● 協賛校の紹介 ● 学協会員 ● 三業協会ファンタジスタ

最新イベント「ダイバーシティ」を開催する大学のバースデーに思いを込めて実施！

ダイバーシティ

2021年11月12日

鈴鹿医療科学大学でダイバーシティに関する授業を行いました！

高等教育コンソーシアムみえでは、毎年恒例に引続き、県内高等教育機関の学友に対し、三業員が現在取り組んでいる「ダイバーシティ」関連の取り組みとともに深く（ゆかり）、多様な社会への方針のもと、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を実施しています。

11月10日（水） 15:10～16:40
「社会福祉概論2」
鈴鹿医療科学大学 保健福祉学部 医療福祉学科 福原 芳樹学部長・教授
三業員 環境法政部 ダイバーシティ社会推進課 男女共同参画課 橋本 千鶴子主任

鈴鹿医療科学大学「社会福祉概論2」において、福原先生にダイバーシティに関する授業を行っていただきました。保健福祉学部の1年生（約40名）の学生が受講しました。

冒頭で、三業員 橋本主任から、三業員におけるダイバーシティの取組みについて説明していただきました。（写真1）



続いて福原先生から、社会福祉の領域と深く関連する男女共同参画社会の話を中心に、県内の現状別の医療や少子化対策についても説明していただきました。（写真2）

言葉で言いにくい「らしさ」という言葉は文化、風土、習慣等により形々と変化していく概念であり、これを求めるのではなく、<編み上げていることを認めあえる>多様性（ダイバーシティ）を受け入れる社会の大切さについて説明していただきました。



授業後のアンケートでは、「あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が心算だと感じますか」という質問に「自分が、世界からではなく、日本国内から価値観を押し込められることが大切だと感じました」といった意見が寄せられ、受講者はダイバーシティについて理解を深めた様子でした。

<https://conso-mie.jp/2021/11/12/2021diversity1110/>



高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

[アクセス](#) [お問い合わせ](#)

● NEWS - イベント
● コンソーシアムみえとは
● 事務局
● 協賛校
● 協賛校
● 卒業生
● 卒業生ファンタジスタ

● NEWS イベント / 学内イベント / 3年制の短期大学でダイバーシティに関する授業を行いました！

ダイバーシティ

2021年11月15日 新着記事

ユマニテック短期大学でダイバーシティに関する授業を行いました！

高等教育コンソーシアムみえでは、県内高等専門学校に在籍する学生に対し、卒業生が自主発起組織である「ダイバーシティみえ推進がけー」とも連携し「きらり」、多様な社会へ」の方針のもと、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を実施しています。

11月12日（金） 14:50～15:50
「子育て支援講座」
ユマニテック短期大学 総合教育学科 田村 真実准教授

【授業テーマ】
子育て支援における多様性について考える【2】～異文化交流の教育現場を想定して～
講師：筑波大学 ラインアップイン学部 生活支援学科 西野 真実子准教授

ユマニテック短期大学「子育て支援講座」科目内講義（田村・西野先生）において、筑波大学 ラインアップイン学部 生活支援学科の西野先生を講師にお招きして授業を行いました。参加者を学ぶ学生57名が参加しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策で、西野先生には遠隔授業で講義をしていただきました（写真1）（写真2）。テーマは、総務に引き継ぎ子育て支援における多様性についてです。今回は、異文化交流の教育現場、具体的には外国籍の子どもや保護者とのコミュニケーションについて展開していただきました。



写真1



写真2

日本で暮らす外国人が増えるに伴い、教育現場においても外国にルーツをもつ子ども・保護者が増加しています。卒業生においては、県内県人口に占める外国人住民の割合をみると、急増傾向にきています。このような中で、保護者と子ども・保護者との間に、文化や価値観、生活習慣の違いによって誤解が生まれることもあります。受講生は、保護者としてどのように関わっていくのかを、グループワークを中心に学修を深めました。

グループワークの最終の中には、アメリカにある保護者・日本にある保護者それぞれの「入学時に必要な持ち帰りリスト」が配付され、「外国籍の方が数量しづらいいものはどのようなものが挙げられるか?」「保護者としてどのような知識をすればいいのか?」を問うものがありました。受講生は、実際の現場を想像しながら、その社会に生きていないと分からないこと、文化の違いがあると理解しづらいいことを改めて整理し、教育現場における多様性についてさらに学びを深めることができました。

第3期目（12月10日金曜日）は筑波大学 西野先生を講師にお招きして、授業を行いました。

● カテゴリー

- ▶ 研修
- ▶ ダイバーシティ
- ▶ FGD
- ▶ 卒業生ファンタジスタ

● アーカイブ

- ▶ 2021年
- ▶ 2020年
- ▶ 2019年
- ▶ 2018年
- ▶ 2017年

<https://conso-mie.jp/2021/11/15/2021dibersity1112/>

45

高等教育コンソーシアムみえ



高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

[アクセス](#) | [お問い合わせ](#) | [検索](#)

NEWS・イベント
コンソーシアムみえとは
事務局内情
協賛校紹介
単位互換
提携校生ファンクラブ

◆ NEWS / イベント / ダイバーシティ / 三重大学でダイバーシティに関する授業を行いました！



2021年12月2日 ▼ カテゴリ

三重大学でダイバーシティに関する授業を行いました！

高等教育コンソーシアムみえでは、昨年度に引き続き、県内高等専門学校等の学生に対し、三重大学が協賛校である「ダイバーシティみえ推進方針〜とむに輝く(まらり)〜、多様な社会へ」の方針のもと、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を実施しています。

12月1日(水) 10:30~12:00
「協賛校理学部」

三重大学 人文学部	山口 新幹村佐教授
近畿大学 社会福祉学部 児童福祉学科	前 赤代洋次准教授

三重大学「協賛校理学部」の交換生3名に対し、近畿大学の協賛校から、ダイバーシティに関する授業を行っていただきました。
新型コロナウイルス感染拡大防止の対策で、授業はオンラインのハイブリッド型で実施しました。【写真1】



【写真1】

導入として、「経済的な男(・女)の人に対する態度」「障がい者が持ち得る能力の程度」といった多様な人間関係・シチュエーションにおける前提の役割の相違を分析する導入ワークがありました。様々な気づきがある中で、遠くでも楽しく話すには、理解が必要だという考えを発信していただきました。【写真2】



【写真2】

性別や人種の違いに問わず、年齢、性別、学歴、経験値などの多様性を受け入れるダイバーシティ・インクルージョンの考え方をもち、互いに多様性を尊重し、認め合うことの大切さを重点的に講義を進めていただきました。

また、この考え方はSDGsの「第5-人種差別なく」持続可能な多様性と包摂性のある社会実現を目指すという目標と深く関連します。このことから、「SDGsから平等」と題し15分目標を挙げながら女性と男性、富弱者、子どもの保護者、高齢者、障がい者、外国人など、たくさんの方に対して、先生自身の体験も交えながら実施していただきました。

そして最後に、講師の人と受講者とのコミュニケーションが取れるようにと、受講生たちと手紙での質問や感謝の気持ちを伝えていただきました。

受講生たちは2回に亘って様々なダイバーシティに関する話を聞き、学びを深めることが出来た様子です。授業後のアンケートでは、「ダイバーシティに関する授業や講座をぜひ実施したい」と思い出すか」という質問に、半数以上の学生から「賛成したいと思う」と回答がありました。

▼ カテゴリ

- ▶ 2021年
- ▶ 2020年
- ▶ 2019年
- ▶ 2018年
- ▶ 2017年

▼ アーカイブ

<https://conso-mie.jp/2021/12/02/2021diversity1201/>



高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

[HOME](#) | [お問い合わせ](#) | [お問い合わせ](#)

[HOME](#) | [イベント](#) | [コンソーシアムみえとは](#) | [事務局](#) | [加盟校情報](#) | [最新記事](#) | [加盟校をファンタスタク](#)

★2021年12月14日(日)「ダイバーシティ」に関する情報をお知らせします！

ダイバーシティ

2021年12月14日 お知らせ

ユマニテック短期大学でダイバーシティに関する授業を行いました！


高等教育コンソーシアムみえでは、昨年夏に引き続き、県内高等教育機関の学生に対し、三葉氏が積極的に関与している「ダイバーシティめえ推進方針」とともに「暮らし」、多様な社会への「方針」と、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会意識の向上を県内に広める事業を高めています。

12月10日(金) 14:50～15:50
「保育実習Ⅲ」
 ユマニテック短期大学 幼児保育学科 田村 敏雄准教授
 授業テーマ
「保育現場とダイバーシティ」
 近畿大学 社会福祉学部 児童福祉学科 高 亜代准教授

ユマニテック短期大学「保育実習Ⅲ」科目内履修(田村 敏雄准教授)において、近畿大学社会福祉学部児童福祉学科の高亜代准教授をお招きして授業を行いました。幼児保育を学ぶ20名生57名が参加しました。(写真1) (写真2)



(写真1)



(写真2)

冒頭で、三葉氏、高亜代准教授から、三葉氏におけるダイバーシティの取り組みについて説明していただきました。

高亜代准教授からは、最初に、業界が注目されている現代社会の状況を説明していただきました。現在は、女性が活躍できる環境づくりをはじめ、子育てや介護との仕事との両立や昇進やキャリアアップの意識向上を行うことにより多様な人材が働きやすい社会が求められています。業界改革を実現させるためには、ダイバーシティの推進が不可欠です。また、少子高齢化が進む時代において、人材確保が課題となります。ここで必要となるのは保育現場の整備です。働く場が安心して子どもを預ける場所があることによって、子どもたちに十分な保育機会を与えながら育てていくことができます。高いレベルの保育人材を確保していくことにつながるということも、ひとつひとつ丁寧に説明していただきました。

最後に、働きがいのある人とともにコミュニケーションが取れるようにと、受講生たちに手紙での自己紹介の仕方を教えていただきました。

これまで以上に、保育現場におけるダイバーシティに関することをテーマに授業をしていただきました。高亜代准教授は、しっかりとダイバーシティの考え方を身に付けられました。

● **カテゴリ**

- ▶ お知らせ
- ▶ ダイバーシティ
- ▶ 12/30
- ▶ 高3まちキャンパス

● **アーカイブ**

- ▶ 2021年
- ▶ 2020年
- ▶ 2019年
- ▶ 2018年
- ▶ 2017年

<https://conso-mie.jp/2021/12/14/2021diversity1210/>

最新NEWS / イベント / ダイバーシティ / ユマニテック短期大学でダイバーシティ公開講座を行いました！



2021年12月15日 お知らせ

ユマニテック短期大学でダイバーシティ公開講座を行いました！

高等教育コンソーシアムみえでは、昨年度に引き続き、県内高等教育機関の学生に対し、三豊圏が現在取り組んでいる「ダイバーシティみえ推進方針」ともに輝く（ゆかり）、多様な社会へ」の方針のもと、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を実施しています。

2021年12月11日、ユマニテック短期大学にて「ダイバーシティに関する公開フォーラム『数値最適化の時代へ向けた高等教育機関への提言』」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

ダイバーシティに関する公開フォーラム

『数値最適化の時代へ向けた高等教育機関への提言』

【日時】2021年12月11日（土） 13：30～15：50

【場所】ユマニテック短期大学 + オンライン（Zoom）開催

【内容】

第1部

基調講演会

「発達障害の子どもたちの活躍と多様な可能性」

三豊県立高等学校 校長

日野 公三氏

第2部

パネルディスカッション

「ダイバーシティの視点での三豊圏の小・中・高等学校の現状発表とディスカッション」

①特別支援教育の視点から

三豊県立かがやき特別支援学校 校長

森井 謙之氏

②地域格差の視点から

三豊県立飯浜高等学校 校長

土方 貴樹氏

③外国にルーツを持つ生徒への教育の視点から

四日市市教育委員会 海運課

鈴木 孝之氏

コーディネーター：

ユマニテック短期大学 学監・入館広報課長（ユマニテック教育研究所 副所長）

鈴木 謙哉氏

登壇者：日野 公三氏、森井 謙之氏、土方 貴樹氏、鈴木 孝之氏

当日は高等教育コンソーシアムみえ機関だけでなく、県内の教育機関関係者からの参加申し込みもあり、47名の参加がありました。

司会はユマニテック短期大学学監・入館広報課の鈴木謙哉氏にお願いいただき、はじめにユマニテック短期大学の鈴木謙哉学監から（写真1）、続いて三豊県立飯浜高等学校ダイバーシティ推進委員女性担当副委員長の本千登子主任から開会のご挨拶をいただきました。（写真2）



（写真1）開会挨拶



（写真2）開会挨拶

● カテゴリー

- > お知らせ
- > ダイバーシティ
- > FO/SO
- > みえまちキャンパス

● アーカイブ

- > 2021年
- > 2020年
- > 2019年
- > 2018年
- > 2017年

第1部は、基陽院にある明蓮館高等学校校長の日野公三氏による基陽院議会「発達障害の子どもたちの進路と多様な可能性」が行われました。60分の講演の中で、高校段階の特別支援教育、高校段階の指導者の特徴、明蓮館高等学校の特別支援教育、教育と医療・福祉の連携の必要性と可能性の4項目立てでお話しいただきました。これからの子どもたちを支える大人の役割について、「子どもたちが求めているものは支援と伴走」とし、子どもたちの自立に向けて変遷していく姿勢の大切さを説明していただきました。（写真3）



（写真3）基陽院議会の様子

続いて第2部のパネルディスカッションでは、まず『特別支援教育』（三重県立かがやき特別支援学校校長 森井博之氏）、『地域性差』（三重県立飯沼高等学校校長 土方博昭氏）、『外国にレザーツを持つ生徒への教育』（四日市市教育委員会指導課 鈴木孝之氏）という3つの視点から捉えた教育現場等における現状発表が行われました。その後、第1部で講演いただいた日野氏や参加者を含めて質疑応答・意見交換が行われました。オンライン参加者、対面参加者からはともに活発な発言があり、『配慮が必要な学生のために学校運営を完遂していくには、どのような行動が必要か』『配慮が必要でない学生への教育は何をすればよいか』といった質問が次々と挙げられました。（写真4）（写真5）

第2部終了後、高等教育コンソーシアムみえの目次官地域活性化推進コーディネーターから閉会の挨拶があり、本公開フォーラムは盛況のうちに終わりました。（写真6）



（写真4）パネルディスカッション、質疑の場



（写真5）会議の様子



（写真6）閉会挨拶

高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

NEWS イベント | コンソーシアムみえとは | 事業内容 | 参加校状況 | 参加校一覧 | 加盟校生フロンティアスタ

2021年12月21日


高田短期大学でダイバーシティに関する授業を行いました！

高等教育コンソーシアムみえでは、昨年度に引き続き、県内高等専門学校等の学生に対し、三課程が協賛校に参入している「ダイバーシティめい」推進計画の一環として「ダイバーシティめい」をテーマとした「ダイバーシティめい」に関する授業を行いました。多様な社会への対応の仕方、授業や社会活動を行い、ダイバーシティ社会意識の向上を県内に広める事業を実施しています。


12月16日【木】 13:00～14:30
「キャリアデザイン」
高田短期大学 キャンパス育成科 オフィスワークコース
キャリア開発センター 基
中継 横之浜校

【授業テーマ】
就職活動の中でキャリア選択

高田短期大学「キャリアデザイン」において、中継形式でダイバーシティに関する授業を行いました。キャリア開発センターオフィスワークコースの1年生約10名が参加しました。【写真1】 【写真2】



【写真1】



【写真2】

冒頭で、三課程 協賛生代表 ダイバーシティ社会意識 高田短期大学の橋本 千壽子先生から、三課程におけるダイバーシティの取組みについて説明していただきました。

中継形式の授業では、SDGsの目標を取り上げながら、現在は少子・高齢化、グローバル化、デジタル化、自給自足、家族・家族の変化といった「変化の時代」であり、そうした時代の中でどうキャリアを選択していくかについて説明していただきました。

また、このような変化の時代においては、県外にも企業が移っています。男女共同参画社会の考えが広がる一方で、自分たちが就職や進路選択を助けてもらえるように、多様な（ダイバーシティ）を認め、取り込むことが大切です。SDGsの「ワークライフ・バランス」（目標10）を支援し、その目標を達成するために必要な活動を考えます。という考え方を紹介しています。これからの社会を生きていくために、個人の選択だけでなく、社会全体で取り組むことが必要だということを説明していただきました。

最後に、子育て支援制度を説明したり、女性社員が活躍している三課程内の企業を紹介していただきました。

授業後のアンケートでは、「あなたは、ダイバーシティ社会を実現するためには、何が最も大切だと思いますか」という質問に対し、「様々な個性があるという事を、みんなの人が受け入れられるような環境づくり。」「差別や偏見のない社会づくり。思いやりの気持ち。」といった回答があり、受講生はダイバーシティの考え方について理解を深めた様子でした。

<https://conso-mie.jp/2021/12/21/2021diversity1216/>

高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

※ アクセス ※ お問い合わせ

※ AFWES イベント ※ コンソーシアムみえとは ※ 事務局内情 ※ 専攻別Webページ ※ 専攻別Webページ ※ 専攻別Webページ

※ 専攻別Webページ ※ 専攻別Webページ ※ 専攻別Webページ

2022年1月19日

高田短期大学でダイバーシティに関する授業を行いました！


高等教育コンソーシアムみえでは、昨年夏に引き続き、高田短期大学の学生に対し、三業種が独自に取り組んでいる「ダイバーシティみえ推進方針」にも関わり、多様な社会への対応の重要性、意識や行動の重要性、ダイバーシティ推進の考え方についても講義を行っています。

1月14日（金） 13:00～14:30
「マーケティングⅡ」
高田短期大学 キャンパス実成学科 オフィスワークコース
キャリア研究センター長 中野 敏之教授

【授業テーマ】
これからのマーケティングについて


高田短期大学「マーケティングⅡ」において、中野先生にダイバーシティに関する授業を行っていただきました。キャリア実成学科オフィスワークコースの21名が参加しました。

冒頭で、三業種 推進方針 ダイバーシティ推進 男女共同参画の推進 子育て支援から、三業種におけるダイバーシティの活動について説明していただきました。（写真1）



（写真1）

今日の授業のテーマは、「これからのマーケティングについて」と題し、いま置かれている環境や市場の変化、競争関係、技術革新などを把握して経営判断につなげていくことの重要性がありました。（写真2）



（写真2）

現在は、新たな経営環境（市場の激変）、グローバル化、インターネット・SNSの発達など、時代に応じたマーケティングが求められています。また、顧客の価値観の変化においても変化が求められる企業イメージ・社会との関係構築（子育て支援の推進、環境問題への対応やSDGの取組みを積極的に取り組むべき）が求められると指摘されました。

これまでの授業であった、マス（大衆）と差別化する集団に向けた商品・サービスを見えるだけでなく、多様な人々のニーズ、場所があることの認識も必要となります。ダイバーシティ（多様性）を取り込むこと、「誰も取り残さない」は必ずしも共通のキーワードとして意識に反映されました。また、この際として、「誰も取り残さない」の両義性についての認識、新しい市場に向けた対応について紹介がありました。

授業では、マーケティングについて学びながら、ダイバーシティの重要性についても理解を深めることができた様子でした。

<https://conso-mie.jp/2022/01/19/2021diversity0114/>



高等教育
コンソーシアムみえ
Higher Education Consortium Mie

[アクトレス](#)
[お問い合わせ](#)

● NEWS・イベント
● コンソーシアムみえとは
● 事業内容
● 地域貢献活動
● 寄付活動
● 三重県生フアンタリスト

● 10月17日イベント / ダイバーシティ / 三重県立看護大学でダイバーシティに関する授業を行いました！



2022年1月27日 お知らせ

三重県立看護大学でダイバーシティに関する授業を行いました！

高等教育コンソーシアムみえでは、昨年度に引き続き、高内高等学校の学生に対し、三重県が現在取り組んでいる「ダイバーシティみえ推進方針」とともに輝く（キラリ）、多様な社会への方針のもと、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を実施しています。

1月26日（水） 13:00～14:30
「母性看護方法1」
三重県立看護大学 母性看護学
大平 肇子 教授

【授業テーマ】
異国決定を支える看護
多様な社会における母性看護学の役割

三重県立看護大学「母性看護方法1」において、大平先生にダイバーシティに関する授業を行っていただきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、授業はオンラインで実施され、2年生103名が参加しました。（写真）

冒頭で、三重県におけるダイバーシティの取組みについて説明した動画を観していただきました。

大平先生の授業では、在日外国人の母子保健の課題を挙げ、多様な社会における母性看護学について説明していただきました。在日外国人の数が増加傾向にある今日、母子保健で注目を集める点を押さえておくことも重要になります。まずは受講者が「実際に自分が外国で妊娠・出産・子育てをする場合を想像して、不安に思うこと」と「看護職に期待すること」について考え、授業に意見が挙げられました。その後、大平先生から言語・コミュニケーションの違い、食文化理解、保健・経済的課題、母子保健支援システムの違いの4点を挙げて説明していただきました。



(写真) 授業の様子

受講生は、多様性の定着やアンコンシャス・バイアスの気づきが、看護の現場においても重要であることを学びました。授業後のアンケートでは、「本日の授業で「ダイバーシティ」についての行動（人の多様性を大切にした行動）をしようと思いましたか？」という質問に対し、回答があった会員から「思った」（78名）又は「どちらかといえば思った」（14名）という回答があり、ダイバーシティの考え方について理解を深めた様子でした。

令和3年度の高内高等学校におけるダイバーシティ授業の実施については、今回が最終回となりました。ご協力いただきました、ユマニテック短期大学、三重大学、新宮医療科学大学、徳島国際大学、三重県立看護大学の先生方、特別講師の先生方へ心から感謝申し上げます。

● 記事名
三重県立看護大学でダイバーシティに関する授業を行いました！
51
2022年1月27日

● カテゴリー

- ▷ 2020年
- ▷ 2021年
- ▷ 2022年
- ▷ 2023年
- ▷ 2024年
- ▷ 2025年
- ▷ 2026年
- ▷ 2027年

● アーカイブ

- ▷ 2022年
- ▷ 2021年
- ▷ 2020年
- ▷ 2019年
- ▷ 2018年
- ▷ 2017年

<https://conso-mie.jp/2022/01/27/2021diversity0126/>

52

高等教育コンソーシアムみえ

高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

三重創生ファンタジスタオリジナル科目 三重学：食と観光実践が開講しました！

三重創生ファンタジスタオリジナル科目「食と観光実践」（県内高等教育機関合同開講授業）が始まりました。テーマは、「松阪駅周辺の「食と観光」をPRするプランの作成（5W1H）」です。皇學館大学4名、四日市大学7名計11名が参加しています。新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえて、前半3回はオンライン講義を行いました。

- ・第1回 9/25（土）：オンデマンド形式
ご当地グルメによる地域おこしの事例を小林 慶太郎先生（四日市大学）よりご紹介いただきました。
 - ・第2回 10/2（土）：オンデマンド形式
松阪市観光協会によるPR動画（約20分）を視聴しました。
 - ・第3回 10/10（日）：オンライン・ライブ形式
三重県総合博物館（MieMu）の太田 光俊学芸員より「三重県への観光の旅と食～駅弁の旅」と題して講義していただきました。
 - ・第4回 10/16（土）：松阪市産業振興センター
当日の授業は、十分な広さの会場をお借りし、マスク着用や手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保など可能な限りの感染症対策を講じたうえで、実施しました。
富本 真理子先生（鈴鹿大学）の講義「観光産業の現状と課題」では、コロナ前・禍中を通して、これから必要な観光の視点はマイクロツーリズムの地域・地元への回帰、日常の延長に観光があることを教えていただきました。また、その後のグループワークでは、授業に参加した留学生を含め、障がい、バリアフリーをキーワードに白熱した議論が展開されました（写真右）。
- また、観光協会へ直接足を運び、現在どのようなマップが作成されているのか情報を収集し、それに基づきバリアフリーに特化したマップについて検討しました。



参照先：https://conso-mie.jp/2021/11/01/0925_1016shokutokanko/

各高等教育機関でダイバーシティに関する授業を実施しています！

高等教育コンソーシアムみえでは、県内高等教育機関の学生に対し、三重県が現在取り組んでいるダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業として、授業や公開講座を実施しています。

- ユマニテック短期大学 2021年10月8日（金）開催
- 三重大学 2021年10月27日（水）開催
- 鈴鹿医療科学大学 2021年11月10日（水）開催
引き続き、各機関で実施します。

【お知らせ】

「ダイバーシティに関する公開フォーラム」を開催します。
日時：2021年12月11日（土）
場所：ユマニテック短期大学

また、次号以降で実施状況を紹介いたします。
本事業についてはこちらから

▶ <https://conso-mie.jp/contribution/contribution-diversity/>

令和3年度「みえまちキャンパス」（四日市看護医療大学）を開催します！

構成機関の学生たちにおける地域活動発表の場「みえまちキャンパス」について、今年度は四日市看護医療大学でZOOMによるオンライン開催にて行います（2022年2月中旬を予定）。

開催にあたっては、活動発表団体の募集を行います。

近日中に高等教育コンソーシアムみえHPへ募集案内の記事を掲載するので、下記URLをご確認ください。

<https://conso-mie.jp/information/>

（NEWS・イベント情報ページ）

皆さまのご参加をお待ちしています！

TOPICS

構成機関の活動紹介として、四日市大学より情報提供していただきました。

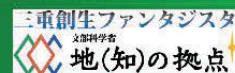
▽10月23日（土）に、四日市大学で大学祭が開催されました。サプライズで行った2,000発の打ち上げ花火は、学生が自発的に関係各所と交渉して実現しました。コロナ禍にあっても前向きに、主体的に行動できる学生が、地域の大学で育ってきています。今後の活躍に注目していきます！
詳細はURLをご覧ください。

<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/yokkaichi-info/archives/3228>

発行元：高等教育コンソーシアムみえ 事務局
連絡先：059-231-9969

下記の機関で三重創生ファンタジスタの養成をしています。

三重大学、四日市大学、皇學館大学、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、鈴鹿医療科学大学、三重県立看護大学、四日市看護医療大学、三重短期大学、高田短期大学、ユマニテック短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校、三重県



高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

鈴鹿大学

～学生による観光情報発信「すず活」～

新型コロナウイルスの影響で、モータースポーツの町鈴鹿市も、F1グランプリ、鈴鹿8耐、鈴鹿10Hなどの国際レースが2年連続中止となりました。一方、学生たちもオンライン授業が続いて以前の様なゼミ活動も難しくなっていました。そんな中で、鈴鹿大学の観光ゼミでは、鈴鹿市観光協会と共同で「すず活」を実施しています。「すず活」とは、鈴鹿市観光協会のウェブサイトやSNSで、鈴鹿大学の学生が取材した鈴鹿市の観光情報、地域情報を発信する活動です。

鈴鹿大学に在籍する、韓国、中国、台湾からの留学生も活動に加わり、多言語発信することも可能となりました。もちろん、日本人学生も、留学生と地域資源との橋渡し役として活躍し、多文化共生の活動になっています。



これまでに、鈴鹿市西部の椿大神社周辺（鈴鹿特産のお茶や鈴鹿パーキングエリア含む）、白子にある老舗和菓子店店主による和菓子作り体験と和菓子談義、日本のコンビニ紹介、いちご狩り体験などを取材し、多言語で発信してきました。

いずれ再開が期待される訪日外国人観光客の訪問に備えて、鈴鹿市の観光情報を発信する良いチャンスでもあります。長らくコロナ禍にあり、感染対策をとりながら、少人数グループで地元の観光資源、地域資源を学生自ら取材し、世界に向けて発信することは、制約がある環境の中でも十分可能なことです。また、学生たちが地域社会に入り、その現状を学び、取材を通じて様々な人々と交流することも、意義深いと考えています。今後も、鈴鹿市の観光情報、地域情報を発信していきますので、ご期待ください。（文責：鈴鹿大学 冨本真理子先生）

鈴鹿市観光協会ウェブ

<https://www.kankou.suzuka.mie.jp/feature/3393/>

2021年12月11日（土）ユマニテック短期大学 でダイバーシティ公開講座を実施しました！

「高等教育コンソーシアムみえ」では、県内高等教育機関の学生に対し、三重県が現在取り組んでいる「ダイバーシティみえ推進方針～ともに輝く（きらり）、多様な社会へ」の方針のもと、授業や公開講座を行い、ダイバーシティ社会推進の考え方を県内に広める事業を受託しています。

ダイバーシティに関する公開フォーラム

「個別最適化の時代へ向けた高等教育機関への提言」

当日は対面+オンラインで実施し、「高等教育コンソーシアムみえ」構成機関以外の県内教育機関関係者を含めた47名の参加がありました。第1部は福岡県にある明達館高等学校校長の日野 公三氏による基調講演会「発達障害の子どもの進路と多様な可能性」を行いました。60分の講演の中で、高校段階の特別支援教育、高校段階の当事者の特徴、明達館高等学校の特別支援教育、教育と医療・福祉の連携の必要性と可能性の4項目立てでお話しいただきました。

第2部のパネルディスカッションでは、「特別支援教育」（三重県立かがやき特別支援学校校長 森井 博之氏）、「地域格差」（三重県立飯南高校校長 土方 清裕氏）、「外国にルーツを持つ生徒への教育」（四日市市教育委員会指導課 鈴木 幸之氏）という3つの視点から捉えた教育機関等における現状発表が行われました。

その後、第1部でご講演いただいた日野氏や参加者を含めて質疑応答・意見交換が行われました。



（チラシ）



（当日 質疑応答の様子）

ダイバーシティに関する授業も実施しています。

- 三重大学 2021年12月1日（水）開催
 - ユマニテック短期大学 2021年12月10日（金）開催
 - 高田短期大学 2021年12月16日（木）、2022年1月14日（金）開催
 - 三重県立看護大学 2022年1月26日（水）開催
- ご協力いただきました先生方、誠にありがとうございました。

本事業についてはこちらから

▶ <https://conso-mie.jp/contribution/contribution-diversity/>

公開講座の報告はこちらから

▶ <https://conso-mie.jp/2021/12/15/2021diversity1211-2/>

6 おわりに

本事業は令和元年度に三重県から受託し、以降3年にわたり実施する結果となりました。当初は3機関で実施していた企画が、10機関に広がり、延べ2,733名の学生にダイバーシティ社会推進の考え方について学ぶ機会を提供することができました。

ダイバーシティは日本語に訳すと「多様性」です。ダイバーシティ&インクルージョン(多様性の受容)という言葉もあり、企業・職場における場面ではよく使われています。三重県では、一人ひとりが個性や能力を發揮し、誰もが参画・活躍できるダイバーシティ社会を目指しています。これは様々なテーマを含んでおり、各高等教育機関の先生方から幅広い視点で授業内容を企画していただきました。また、コロナ禍においてもオンラインを活用した授業を実施し、広く学生に情報を与えていただきました。

【令和元年度実績】

実施機関	回数	受講者数(延べ)
三重大学	4回	310名
	公開講座 1回	150名
鈴鹿大学	3回	44名
皇學館大学	2回	400名

公開講座は、2つのテーマ「三重大学のダイバーシティプロジェクト報告～日中韓大学生の男女共同参画意識調査結果、講義内容のダイジェスト～」(三重大学 朴恵淑教授)、「三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」のダイバーシティ活動」(三重県男女共同参画センターフレンテみえ 長谷川峰子事業課長兼相談係長)について講演していただき、その後パネル討論、パネラーによる各種ダイバーシティ社会推進のための取組報告が行われました。



また、「ダイバーシティ懇談会」として本事業の関係者それぞれの授業・講座の内容の共有及び今後の三重県におけるダイバーシティ推進のための意見交換が行われました。

【令和2年度実績】

実施機関	回数	受講者数（延べ）
四日市大学	3回	312名
	公開講座1回	67名
鈴鹿大学	2回	121名
皇學館大学	2回	467名
三重大学	6回	165名
四日市看護医療大学	1回	84名
三重短期大学	2回	98名

公開講座は2部構成で開催され、第一部は認定NPO法人虹色ダイバーシティ理事長の村木真紀氏による基調講演「LGBT視点から職場と社会を変える」が行われました。第二部は、村木氏と四日市大学の小林慶太郎副学長との対談形式で「地方大学から考えるLGBT～これからどうする？どう変える？」と題して対談が行われました。



【令和3年度実績】

実施機関	回数	受講者数（延べ）
三重大学	2回	75名
鈴鹿医療科学大学	1回	40名
三重県立看護大学	1回	103名
高田短期大学	2回	80名
ユマニテク短期大学	3回	170名
	公開講座1回	47名

公開講座は、明蓬館高校校長の日野公三氏による基調講演が行われ、その後「ダイバーシティの視点での三重県の小・中・高等学校の現状とディスカッション」をテーマにパネルディスカッションが行われました（詳細は8ページをご覧ください）。

授業実施後には、受講学生に向けたアンケートを行いました。3年分をまとめた集計結果を見てみると、受講学生全体の95%以上が講義を通して「ダイバーシティについての理解が深まった」、「ダイバーシティについての行動をしようと思った」と回答しておりました。また、授業を担当された先生からは、今後もぜひ続けていきたい、ダイバーシティに絡めた授業内容にしていきたいという声をいただきました。各高等教育機関における授業や公開講座を通して、県内学生を中心にダイバーシティへの関心と理解を広めることができました。これを機会に、今後もダイバーシティ社会推進に関する取り組みを企画するなどして、さらなる発展に臨みます。

授業や公開講座を企画・運営していただいた県内高等教育機関の教職員の皆様方、特別講師の皆様方、ご協力いただき誠にありがとうございました。